佐賀大学　肥前セラミック研究センター

自己点検・評価報告書

(平成 29 年度)

平成 30 年 12 月

Ⅰ．教育

(1) 平成 29 年度「教育改善支援経費」：肥前地区キャリア教育プログラム

予算配分：23.5 万円

取組概要：肥前セラミック研究センターと肥前地区の企業・商社等が共同で肥前地区の産業の解説や企業の見学会等を実施することで、学生に肥前地区企業への関心を高めて理解を深めてもらい、将来的に就職してもらうことで、地域貢献と地元企業への就職率向上に寄与することを目的とする。

12/13(水)：ガイダンス（九州・佐賀のセラミックス産業について）（学生 13 名、教員 2 名）

12/19(火)：岩尾磁器工業㈱、㈱香蘭社（学生 8 名、教員 2 名）

1/18(木)：九州陶磁文化館、有田町地域おこし協力隊、佐賀大学有田キャンパス（学生 13 名、教員 1 名）

1/26(金)：パナソニックデバイス佐賀㈱、日本ハードメタル㈱（学生 7 名、教員 2 名）

1/29(月)：日本タングステン㈱　（学生 6 名、教員 5 名）

1/30(火)：パナソニックデバイス佐賀㈱、日本ハードメタル㈱（学生 8 名、教員 2 名）

1/31(水)：岩尾磁器工業㈱、㈱香蘭社（学生 9 名、教員 1 名）

(2) センターの研究に関連して教育した学生：34 名

学 生 名	学　　年	研究テーマ名	指導教員
河上　直樹	学部 4 年	強化磁器の強度に及ぼすアルミナ粒径の影響	渡
富安　実穂	学部 4 年	アルミナ強化磁器の曲げ強度に及ぼすタルク添加の影響	渡
田中　宏樹	学部 4 年	α-Fe_2O_3@セラミックスナノ粒子の合成と赤色顔料への応用	矢田
安永　怜央	学部 4 年	Al_2O_3-$Al(OH)_3$ -PTA 複合粒子の合成とガス分離膜への応用	矢田
坂倉　　恵	学部 4 年	層状リン酸チタンナノ粒子の合成と Pb^{2+}および Ag^{+}イオン吸着特性の評価	矢田
藤川　真衣	学部 4 年	チタン酸ナトリウムナノ・マイクロ階層構造粒子のイオン交換特性	矢田
西浦友梨乃	学部 4 年	ディオプサイド結晶釉の製造	渡
古賀　文也	学部 4 年	IH 加熱対応釉薬の製造	渡・三沢
吉永佳奈子	学部 4 年	Li-Cu-Ni-Mn-O 系スピネル化合物の合成と電気化学特性―焼成雰囲気の検討―	磯野
福嶋　梨奈	学部 4 年	Li-Cu-M(Co, Fe, Al)-Mn-O 系スピネル化合物の合成とリチウム電池正極特性	磯野
日種　隆敬	学部 4 年	シリカ粒子を導入した多孔性中空糸膜による剛性の異なる粒子の分離	川喜田
田村　嘉彬	学部 4 年	陶磁器作製時に発生する廃素焼き片のろ過材としての機能について	根上
竹下あかり	学部 4 年	陶磁器破砕片と廃石膏による藻礁の作製とモニタリング	根上
坂田　豪大	学部 4 年	放電プラズマ焼結における温度の不均一性の解明	三沢
小塩　祥平	学部 4 年	乾燥湿潤の繰り返し履歴を受けたセメント改良土の圧縮強度の変化	近藤
前田みさき	修士 2 年	PTA 溶液を用いたリン酸チタン粒子の合成と Pb^{2+}選択的吸着特性	矢田
藤木　祐太	修士 2 年	ナノ・マイクロ階層構造を有するチタン酸塩粒子の合成とナトリウムイオン電池負極材料への応用	矢田
大坪　由佳	修士 2 年	チタン酸ナトリウムの金属イオン交換試料の合成とリチウムイオン電池用負極材料としての応用	矢田
渡邉　大貴	修士 2 年	Er^{3+}と Yb^{3+}をドープした CeO_2中空粒子の合成とアップコンバージョン	矢田

		発光特性	
重松　大喜	修士２年	形態制御した Nb_2O_5の合成とリチウムイオン電池負極材料への応用	矢田
有村　幸徳	修士２年	亜鉛釉中の Zn_2SiO_4結晶の蛍光特性に及ぼす添加物効果	渡
稲田　隼也	修士２年	亜鉛釉における Zn_2SiO_4結晶の成長	渡
嘉村翔太郎	修士２年	有田陶磁器のラマン分光分析に関する研究	海野
前田　侑也	修士２年	多軸通電焼結プロセスにおける焼結試料の温度分布の最適化	三沢
藤瀬　清貴	修士２年	碍子用スラリー中に生じる気泡の発生挙動	成田
桑原　尚樹	修士１年	PTA 溶液を用いたリン酸チタン粒子の合成と金属イオンの選択的吸着特性	矢田
古澤　秀和	修士１年	チタン酸金属粒子の合成とナトリウムイオン電池用負極材料への応用	矢田
堀野　将大	修士１年	$Sr_{2-x-y}MgSi_2O_7:Eu^{2+}{}_x,Dy^{3+}{}_Y$蓄光体の合成	渡
木本麻佑子	修士１年	久米島紫金鉱の青色釉薬への応用	渡
木谷　栄美	修士１年	磁性粒子を共存させた微細藻類のクロスフローろ過による分離	川喜田
藤瀬　清貴	修士２年	碍子用スラリー中に生じる気泡の発生挙動	成田
Rino Claessens	留学生（DAE）	高い高台のあるテーブルウェアシリーズ	三木・田中・湯之原・
Céline Lallau	留学生（DAE）	大物造形物の排泥鋳込み	三木・田中・湯之原
Laura Johanna König	留学生（BURG/Halle）	利便性を考慮した蒸し器-大物圧力鋳込み成形	三木・田中・湯之原・甲斐

【自己評価】

肥前セラミック研究センターに所属する学生はいないものの、芸術地域デザイン学部、農学部、理工学部、工学系研究科等との連携において、肥前地域と係わりながら、主に研究を通して、比較的多くの学生の教育に貢献できた。今後も学部・大学院との連携を深め、研究における学生指導を通して地域貢献を促進したい。

Ⅱ．研究

(1)研究テーマ

●プロダクトデザイン・アート研究部門：デザインによる高付加価値の創出、地域産業との協働プロジェクトの開発

伝統技術及び、ろくろ成型指導とやきもの産業人材育成（甲斐）

焼き物による表現活動の指導、地域焼き物産業との連携（田中、共同研究：有田陶交会、佐賀県陶磁器工業協同組合、九州陶磁文化館）

石膏型成型技法研究、地域産業との連携、海外大学とのデザイン交流と人材育成（三木、共同研究：有田陶交会、佐賀県陶磁器工業協同組合）

焼き物作家養成、地域焼き物産業との連携（湯之原、共同研究：有田陶交会、佐賀県陶磁器工業協同組合）

●セラミックサイエンス研究部門：新材料探索と作製手法の検討、共同研究を通じた人材育成

強化磁器の強化メカニズムの解明と新規強度設計（赤津、共同研究：佐賀県窯業技術センター）

ラマン分光法による古陶磁器および新規開発陶磁器の発色顔料の解析（海野、共同研究：佐賀県窯業大学校、佐賀県九州陶磁文化館、有田町歴史民俗資料館）

流れを用いた溶液分散性セラミックス粒子の簡易分析（川喜田、共同研究：株式会社 PAT）

コロイド粒子を導入した多孔性膜による粒子や高分子の分離（川喜田）

陶土の可塑性評価および陶磁器廃材のリサイクル（近藤、根上、共同研究：佐賀県窯業技術センター、(有)文翔窯）

粘弾性流動体中に溶存した気体に関する研究（成田、共同研究：㈱セイブ）

酸化物ナノ粒子を用いた新規顔料の開発（矢田、共同研究：佐賀県窯業技術センター）

高機能多孔質担体の開発（矢田、共同研究：岩尾磁器工業㈱）

佐賀の知的財産を用いた高機能セラミックスの創製（矢田、※(公社)日本セラミックス協会秋季シンポジウムのトピックス講演、日刊工業新聞 2017 年 9 月 21 日に掲載）

セラミック系電極材料の開発（磯野）

IH（誘導加熱）に対応する有田磁器製の病院・介護施設給食用食器の開発（三沢、共同研究：㈱匠）

有田磁器の高機能化に関する研究（三沢、共同研究：深川製磁㈱）

発光特性を有する機能性釉薬の開発（渡）

●マネジメント研究部門：やきもの市場調査・市場分析、ニーズ調査と分析

歩いて暮らせる都市に関する研究、既成市街地に変化をもたらす都市触媒に関する研究（有馬）

地域ブランドとまちづくりに関する研究（西島）

地域ブランド研究、地域商業研究（宮崎）

インターネットマーケティング、アートマーケティングに関する研究、地域ブランディングと人材育成（PBL 教育実践）（山口）

やきものにおける地域の拠点形成、スマート・シュリンク時代に適応した地方都市の中心市街地の在り方、Places to Grow 政策と既成市街地の活性化（山下）

(2)作製したプロトタイプ：17 件

有田陶交会×佐大 PROJECT（10 件）

Rino Claessens (DAE) : ”froating on the table”

Céline Lallau (DAE) : ”WHITE RIVER”

Laura Johanna König (BURG/Halle) : ”STEAM”

Laura Johanna König (BURG/Halle) : Jug ”V”

space & matter "SWEETS" PROJECT (オランダ)

徳幸窯　蓋物容器設計

伝統工芸士　村上三和子とのタイアップ　”わたしのハコ”

(3)論文：5 報

Kimiko Yoshida, Norimasa Nishiyama, Yutaka Shinoda, Takashi Akatsu, Fumihiro Wakai: Evaluation of effect of crack deflection and grain bridging on toughening of nanocrystalline SiO_2 stishovite; *Journal of the European Ceramic Society*, **37**, 5113-

5117 (2017)【査読有】

Takashi Akatsu, Shingo Numata, Yutaka Shinoda, Fumihiro Wakai: Effect of the Elastic Deformation of a Point-Sharp Indenter on Nanoindentation Behavior; *materials*, **10** [3], 270(doi:10.3390/ma10030270) (2017)【査読有】

Fujisawa, T., Leverenz, R. L., Nagamine, M., Kerfeld, C. A., Unno, M:Raman optical activity reveals carotenoid photoactivation events in the orange carotenoid protein in solution ; *J. Am. Chem. Soc.* **139**, 10456-10460 (2017)【査読有】

Iwata, T., Nozaki, D., Yamamoto, A., Koyama, T., Nishina, Y., Shiga, K., Tokutomi, S., Unno, M.:Kandori, H. Hydrogen bonding environment of the N3−H group of FMN in the LOV domains of phototropins ; *Biochemistry* **56**, 3099-3108 (2017)【査読有】

Kajimoto, K., Kikukawa, T., Nakashima, H., Yamaryo, H., Saito, Y., Fujisawa, T., Demura, M., Unno, M. : Transient resonance Raman spectroscopy of a light-driven sodium-ion-pump rhodopsin from Indibacter alkaliphilus ; *J. Phys. Chem. B* **121**, 4431-4437 (2017)【査読有】

(4)著書･解説等：1 編

赤津　隆：機械工学年鑑 2017　6・1・3 無機材料（ファインセラミックス）、pp.2-3（2017）

(5)研究発表：25 件

Takashi Akatsu, “Numerical Analysis of Nanoindentation Behavior Simulated with the Finite Element Method”, 6th International Symposium on Advanced Ceramics (ISAC-6), March 13, 2018, Tohoku University, Sendai, Japan【Invited Talk】

仲本　裕、篠田　豊、赤津　隆 、若井史博、”ナノインデンテーション試験による耐環境性コーティングの 800℃に於けるヤング率測定”、日本セラミックス協会第 30 回秋季シンポジウム、2L28、2017 年 9 月 20 日（神戸大学　六甲台地区）【口頭発表】

三木悦子 、“有田の国際交流の実態と佐賀大学"SPACE-ARITA"について”、2017 年 10 月 23 日（ドイツ、ブルグ芸術デザイン大学ハレ）【口頭発表】

三木悦子 、“有田の国際交流の実態と佐賀大学"SPACE-ARITA"について”、2017 年 10 月 27 日（オランダ、アイントホーヘンデザインアカデミー）【口頭発表】

三木悦子 、“佐賀大学や有田の国際交流の実態と肥前セラミック研究センターについて”、東アジア陶磁器シンポジウム、2017 年 11 月 17 日（韓国、ソウル 漢陽女子大学校）【口頭発表】

前田みさき、渡　孝則 、矢田光徳 、“PTA 溶液を用いたリン酸チタンナノ粒子の合成と Pb^{2+}吸着特性”、日本セラミックス協会秋季シンポジウム、2017 年 9 月 19～21 日（神戸大学）【口頭発表】

木本麻祐子、渡　孝則 、鳥飼紀雄 、矢田光徳 、“久米島紫金鉱を用いた青色釉薬への応用”、平成 29 年度日本セラミックス協会九州支部秋季合同研究発表会、2017 年 11 月 2 日（北九州国際会場）【口頭発表】

重松大喜、渡　孝則 、矢田光徳 、“形態制御した Nb_2O_5のリチウムイオン電池負極材料への応用”、平成 29 年度日本セラミックス協会九州支部秋季合同研究発表会、2017 年 11 月 2 日（北九州国際会場）【口頭発表】

堀野将大、渡　孝則 、鳥飼紀雄、矢田光徳 、武田真、“$Sr_{2-x-y}MgSi_2O_7:Eu^{2+}{}_x,Dy^{3+}{}_y$畜光体の合成－可視光下での畜光－”、平成 29 年度日本セラミックス協会九州支部秋季合同研究発表、2017

年 11 月 2 日（北九州国際会議場）【口頭発表】

八谷英佑、近藤文義 、高島千鶴、“フライアッシュ粉体およびジオポリマー硬化体からの溶出イオン特性について”、公益社団法人農業農村工学会大会講演会、2017 年 8 月 30 日（日本大学）【ポスター発表】

八谷英佑、近藤文義 、“初期加熱および養生条件の違いがジオポリマー硬化体の圧縮強度に及ぼす影響”、農業農村工学会九州沖縄支部大会講演会、2017 年 11 月 1 日（パピヨン 24、福岡市）【口頭発表】

川喜田英孝 、江崎翔平、高岡祐士、森貞真太郎、大渡啓介、坂口幸一、藤澤知績、海野雅司 、“変形する球状ゲルを充填したカラムによる酸化グラフェンの分離”、日化学工学第 49 回秋季大会、2018 年 9 月 19～22 (名古屋大学)【口頭発表】

Takanori Hidane, Sintaro Morisada, Keisuke Ohto and Hidetaka Kawakita, “Adsorption and filtration of particles based on rigidity by silica-introduced porous hollow-fiber membrane”, The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University,P07, March 15,2018,Saga University, Saga, Japan【Poster Presentation】

田村嘉彬、根上武仁 、“陶磁器作製の際の素焼き片廃材のろ過材としての有効利用について”、平成 29 年度土木学会西部支部研究発表会、2018 年 3 月 3 日（宮崎大学）【口頭発表】

竹下あかり、根上武仁 、山本健太郎、溝口直敏、“磁器破砕片と廃石膏による藻礁の作製とモニタリング”、 平成 29 年度土木学会西部支部研究発表会、2018 年 3 月 3 日（宮崎大学）【口頭発表】

三沢達也 、酒井大樹、川上雄士、川原正和、“放電プラズマ焼結における導電性材料・ダイの電気的特性と焼結挙動”、平成 29 年度 粉体粉末冶金協会春季大会(第 119 回講演大会)、2017 年 6 月 1 日（早稲田大学国際会議場）【口頭発表】

Tatsuya Misawa, Yuji Kawakami, Masakazu Kawahara,“Influence of electrical property of sintering die on the sintering behavior of Spark Plasma Sintering process,” Frontiers in Materials Processing Applications, Research and Technology (FiMPART 2017)(Bordeaux convention centre (Congress et Expositions de Bordeaux, France)), July 11, 2017（France）【Oral Presentation】

Tatsuya MISAWA, Yuji KAWAKAMI and Masakazu KAWAHARA,“Effect of electrical property of graphite die on sintering behavior of Spark Plasma Sintering process ” ,JSPM International Conference on Powder and Powder Metallurgy, November 7, 2017, Kyoto University, Kyoto, Japan【Oral Presentation】

Yuya MAEDA, Tatsuya MISAWA and Kenichi SUNAMOTO,“Control of temperature distribution in sintering die on Multi-Axis current Sintering process ” ,JSPM International Conference on Powder and Powder Metallurgy, November 7, 2017, Kyoto University, Kyoto, Japan【Oral Presentation】

三沢 達也 、酒井大樹、川上 雄士、川原 正和、“放電プラズマ焼結における 材料－ダイ境界面での焼結の不均一性”、平成 29 年度 粉体粉末冶金協会 秋季大会(第 120 回講演大会)【口頭発表】

前田 侑也、三沢 達也 、砂本 健一、“多軸電流焼結プロセスにおける 焼結ダイの温度分布制御” 、平成 29 年度 粉体粉末冶金協会 秋季大会(第 120 回講演大会)、2017 年 11 月 9 日（京都大学百周年時計台記念館）【口頭発表】

三沢達也 、坂巻巧、坂田豪大、川上雄士、“川原正和“黒鉛容器を用いた SPS プロセスにおける焼結挙動の不均一性”、東北大学金属材料研究所ワークショップ「通電焼結プロセスによる材料研究の新展開」、2017 年 12 月 1 日（東北大学）【口頭発表】

Junya INADA, Takanori WATARI, Toshio TORIKAI, Mitsunori YADA, Hideyuki MATSUO and Akihiko KAWAHARA, “ Characteristics of Zn2SiO4 crystal grown in zinc glaze”,The 34th International Japan-Korea Seminar on Ceramics, November 22-25 Hamamatsu, Japan【Oral Presentation】

Kotoku ARIMURA, Takanori WATARI, Mitsunori YADA, Toshio TORIKAI, Hideyuki MATSUO, Akihiko KAWAHARA, “ Formation and characterizations of fluorescent willemite crystal glaze”,The 34th International Japan-Korea Seminar on Ceramics, November 22-25 Hamamatsu, Japan【Oral Presentation】

西島博樹 、“肥前窯業圏におけるまちづくりネットワーク”、日本消費経済学会第 42 回全国大会、2017 年 7 月 1 日（大阪商業大学）【口頭発表】

【自己評価】

10 件以上の共同研究を肥前地域で行うなど、それぞれ 3 部門において研究が活発に進められている。平成 29 年度は肥前セラミック研究センター設立初年度であり、全員が併任教員であることを鑑みれば、十分な研究成果を挙げることができていると言えるが、論文数など、アウトプットを増やす努力が必要である。

Ⅲ．国際交流・地域貢献

(1)講演会・イベント

①キックオフ講演会

【日　　時】 平成 29 年 7 月 2 2 日（土）14:00～17:00

【場　　所】 佐賀大学有田キャンパス 2 階　有田プロジェクトルーム

【プログラム】

14:00～14:05：開会のご挨拶（門出政則：佐賀大学研究担当理事　副学長）

14:05～14:15：肥前セラミック研究センターのご紹介（赤津　隆：センター長）

14:20～15:00：「デザインの本質・有田、それを取り巻く環境」
長谷川　武雄　先生（長谷川陶磁器工房・クラフトデザインラボ代表者）

15:10～15:50：「陶磁器からファインセラミックスへ：セラミックスの歴史と技術的展開」
北條　純一　先生（九州大学名誉教授）

16:00～16:40：「韓国における生活関連産業の動向－小売商業と陶磁器産業に焦点をあてて－」
田村　善弘　先生（長崎県立大学地域創造学部准教授）

16:40～16:45：　閉会のご挨拶（西島博樹：副センター長）

※講演会終了後、ご希望の方を対象に、有田キャンパスの見学会（15 分程度）を行った。

【参加人数】 92 名（内訳）一般：46 名、佐賀大学職員：27 名、佐賀大学学生：19 名
【広　　報】 佐賀新聞（http://www.saga-s.co.jp/news/saga/10105/449449）

②SAGA ものスゴフェスタ 2017

【日　　時】 平成 29 年 8 月 26 日（土）、27 日（日）　10:00～17:00
【場　　所】 市村記念体育館
【内　　容】「型をつかって有田焼のマグカップをつくろう」―石膏型を用いた陶土泥漿による排泥鋳込みでカップを制作する。日本を代表する佐賀県の有田焼、伊万里焼の成形技術の 1 つである「鋳込み」を体験して頂き、鋳込みに潜む科学技術について分り易く解説した。2 日間にわたり、計 6 回（展示スペースの都合上、参加者 8 名/回に限定）の体験デモンストレーションを行った。参加者全員に磁器カップをプレゼントした。参加希望者をお断りせざるを得ないほどの大盛況で、山口佐賀県知事の来訪や NHK の取材があった。
【広　　報】 NHK ニュース（http://archive.li/rLHK1）
佐賀新聞（http://www.saga-s.co.jp/news/saga/10105/458308）

③肥前地域のまちあるき「嬉野温泉のエリアリノベーション」

【主　　催】 一般社団法人 日本建築学会九州支部都市計画委員会
佐賀大学 肥前セラミック研究センター
【後　　援】 嬉野市
【日　　時】 平成 29 年 9 月 6 日（水）、7 日（木）
【主 会 場】 嬉野市公会堂
【参加大学】 九州大学、九州産業大学、近畿大学、熊本大学、崇城大学、大分大学、佐賀大学
【プログラム】1 日目　10:45～11:10　開会式、スケジュール等の説明
11:10～12:30　講演会（馬場正尊氏）、課題説明
12:30～13:30　昼食
13:30～18:00　街歩き・アイデアの検討
2 日目　9:00～12:00　プレゼンテーション作成、成果物提出
12:00～13:00　昼食
13:00～15:30　成果発表会（嬉野市公会堂）
15:40～16:15　審査・表彰・閉会式・片づけ
【参加人数】 93 名（内訳）教員・講師　13 名、地元関係者　市長はじめ 5 名、学生　75 名

④講演会「科学と芸術の融合による“やきもの”イノベーション」、セラミックサイエンス研究部門研究成果発表会

【日　時】 平成 29 年 9 月 7 日（木）
講演会 13:00～17:30，研究成果発表会 12:00～16:30
【場　所】 佐賀県窯業技術センター
【内　容】
講演会：日本の有力な陶磁器の産地において、第一線で科学と芸術を融合した製品や芸術品を産み出している 4 名を招いて講演会を実施し、活発な議論を行った。
講演者：　蒲地　伸明　先生（有田焼，佐賀県窯業技術センター）
尾畑　成造　先生（美濃焼，岐阜県セラミックス研究所）

高田　潤　先生（備前焼，岡山大学）
中村　元風　先生（九谷焼，今九谷窯）
研究成果発表会：セラミックサイエンス研究部門教員の研究成果 15 件のポスター発表を行った。研究内容を参加者に周知するとともに、活発な議論を行った。
【参加人数】 107 名

⑤講演会「地域ブランドと"やきもの"まちづくり」
【日　　時】 平成 29 年 9 月 15 日（金）14:00～16:00
【場　　所】 佐賀大学有田キャンパス 1 階　会議室
【プログラム】14:00～14:05：開会挨拶、肥前セラミック研究センターの紹介（赤津　隆：センター長）
14:05～15:05：講演「地域ブランドと"やきもの"まちづくり」 陶山計介先生（関西大学商学部教授）
15:05～15:15：休憩
15:15～16:00：質疑応答、ディスカッション
地域ブランドに関する参加者からの質問・疑問に陶山先生が答えた。
また、陶山講師を囲んで「地域ブランド」「まちづくり」について議論した。
16:00～16:05：閉会挨拶（西島博樹：副センター長）
【参加人数】 31 名（内訳）行政・一般：14 名、佐賀大学職員：10 名、大学院生、学部生：7 名

⑥平成 29 年度肥前セラミック研究センター研究成果報告会
【日　　時】 平成 30 年 3 月 27 日（火）15:00～17:00
【場　　所】 佐賀大学有田キャンパス 2 階　有田キャンパスプロジェクトルーム
【発表形式】 教員全員によるポスター発表
【参加人数】 47 名

(2)技術相談：68 件（うち、肥前地区 52 件）

(3)海外からの来訪
①訪問者：財団法人翡翠青瓷文化芸術基金会　董事長　李壮源夫妻
台湾知日協会/台日企業経営協会　李富山氏
訪問日：平成 29 年 7 月 18 日(火)
②訪問者：Dr. WooSeok CHO(KICET)、Dr. Doh-Jung-Mann(KIST) 他 1 名
訪問日：平成 29 年 9 月 27 日(水)

(4)留学生の受け入れ（芸術地域デザイン学部と連携）
①アイントホーヘンデザインアカデミー（DAE、オランダ）
②ブルグ芸術デザイン大学ハレ（BURG/Halle, ドイツ）

(5)地域連携
①5 者連携協定締結（佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センター、佐賀県立窯業大学校、佐賀大学芸術地域デザイン学部）
②佐賀県窯業技術センターとの共同研究契約締結

【自己評価】

肥前地域に対する貢献は、延べ 400 名以上の参加者を動員できた講演会・イベントや技術相談などを通して行った。オランダ、ドイツ、韓国などとの連携を開始したが、より一層、活発な海外との交流が必要である。

Ⅳ．組織運営

(1)教員・職員

教員：15 名（併任、芸術地域デザイン学部 9 名、経済学部 1 名、工学系研究科 4 名、農学部：1 名）

協力教員：4 名（工学系研究科 4 名）

非常勤研究員：1 名

事務補佐員：1 名

※平成 30 年 4 月 1 日付の専任教員（教授 1 名）の採用を決定した。

(2)学内予算：2,555 万円

（内訳）事業経費：198 万円、一般運営経費：800 万円、全学管理経費：400 万円、機能強化促進費：1,157 万円

(3)支出：2,555 万円

（内訳）非常勤研究員 1 名雇用：399 万円、事務補佐員 1 名雇用：180 万円、光熱水費：36 万円、共通経費：472 万円、事業費：305 万円、走査型電子顕微鏡一式：991 万円、その他備品：167 万円、執行残額：5 万円

(4)外部資金

(公社)日本セラミックス協会 2017 年度理工系人材育成活動助成金：5 万円

平成 29 年度産学官連携技術革新支援事業（基礎研究等）に係る委託試験：200 万円（川喜田）

科学研究費補助金　基盤研究(C)：380 万円（海野）

(5)肥前セラミック研究センター運営委員会：4 回開催

【自己評価】

肥前セラミック研究センターを構成する教員全員が併任であるが、平成 30 年度以降、専任教員 1 名が配属される予定であり、センターの機能強化が期待できる。非常勤研究員の雇用は全学管理経費で賄われているが、有田キャンパスでの研究活動を継続する上で非常に重要であり、次年度以降も確保したい。外部資金を獲得すべく、努力する必要がある。